

子どもの貧困NO!

2009年10月、厚生労働省から子どもの貧困率が発表になりました。14.2%、およそ7人に1人の子どもが貧困状態にあるということがわかりました。ひとり親家庭ではなんと54.3%！ 学ぶこと、生きることから疎外されている子ども、その貧困問題解決は待ったなしです。



貧困の中の子ども

給食が唯一の栄養源で夏休みにはやせてしまう子、メガネが買えない子、お金のかからない部活を選ぶ子、定時制高校の受験に失敗し行き場のない15歳、授業料をバイトで稼ぐ高校生、大学卒業と同時に数百万の借金を抱える奨学生、教材費や給食費が払えない家庭、ダブルワークでたくたのお母さん…。

貧困問題は子どもたちにとっても深刻です。お金がないために学ぶ機会や環境が充分でない子どもたちは、いずれ失業者や非正規労働者となり、貧困が再生産されてしまうのではないのでしょうか。

私たちは、昨年6月5日に集会を開き、「子どもを貧困と格差から守る連絡会議」を立ち上げました。子どもにかかわる大人たちで、学び合い、子どもの貧困をなくすためのとりくみを少しずつすすめてきました。

昨年度は、自治体の緊急対策や就学援助制度の実態を調査したり、自治体や議会に要請や請願を行ったり、宣伝や集会、署名にとりくんだり、パンフレットを作ったりしてきました。

ようやく、子どもの貧困問題にもスポットがあたり、さまざまな個人や団体がつながって全国のネットワークもできました。私たちの連絡会議も、そうした組織と交流し、協同しながら運動をすすめています。

みなさんの声を裏面のアンケートでお寄せください。今後の運動の参考にいたします。また、右のような集会を企画しています。ぜひ、ご予約に入れてください。

保障されていない教育のお金

中学生以下の子どもたちには子ども手当、公立高校の授業料は無償に、生活保護の母子加算復活、子育て支援は少しずつ前進してきました。でも、まだまだ教育にはお金がかかります。

義務教育の間は就学援助制度があり、一定の収入以下の家庭には、給食費や教材費、遠足や修学旅行代などが補助されます。東京では平均して2割強の子どもがこの制度を利用しています。しかし、援助の基準が区市町村によって違うため、財政力の低い地域ほど十分な援助がされないという問題があります。また、教育にかかるお金すべてを補助するわけではないので、制服代、部活の費用、塾代等が家計を圧迫しています。

高校、大学となると、入学金や授業料、教科書や参考書代もかかります。私立高校への助成を増やしたり、給付型の奨学金制度を作ったりしなければ、進学や卒業も厳しい学生がたくさんいるのです。

保育園の待機児童、保険証のない子ども、内定率や就職率の低下、家庭や地域の崩壊、虐待…、子どもをめぐる問題はまだまだたくさんあり、そうした問題を抱えた子どもや家族が、孤立しがちであるところに問題の根の深さがあります。

「貧困・格差・孤立から 守ろう子ども！」東京集会 10月16日(土) 13時~17時

平和と労働センター全労連会館 御茶ノ水駅6分

子どもにかかわる人みんなが集まって、東京の子どもの貧困問題を共有するとともに、子どもを守るこんなとりくみをしている、こんなことをやろう、そうした実践の交流で、知恵と力とつながりを求める集会です。来てください！